

2021(令和 3)年度
富士山エコレンジャー環境パトロール報告

2022(令和 4)年 6 月

富士山エコレンジャー連絡会

富士山憲章

- 1 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

静岡県・山梨県

富士山エコレンジャーを知っていますか

富士山の自然環境を保全する活動に賛同している団体の集まりである「ふじさんネットワーク」の会員であり、富士山にて自然環境保全に係る様々な活動をするボランティアです。

登山マナーの啓発

富士山の自然や動植物の解説

環境パトロール

富士山エコレンジャー 証明書

下記の富士山エコレンジャーとして登録した者であることを証明する。

ふじさん ネットワーク
富士山エコレンジャー
静岡県
腕章
この腕章を見つけたら、ぜひ声を掛けてください。

1 来訪者へのマナー啓発
ごみの持ち帰り 登山道を外れて歩かない トイレはきれいに使用するなど

2 来訪者への自然解説等の情報提供
富士山の動物・植物 地形・地質 気象 歴史・文化など

3 動植物の保護とその情報収集
貴重な動植物や森林等の保護活動 保護研究に役立つ情報の収集

活動報告

お願いします!

環境パトロールを通じて

「富士山を訪れる方に、

①自然環境への負荷を減らし

②安全に

富士山を利用してもらい、

富士山の現状を広く共有する」

ボランティア保全活動

表彰

環境省「富士箱根伊豆国立公園指定 80 周年記念功労者」2016 年(平成 28 年)
(公財)日本自然保護協会「日本自然保護大賞」2017 年度、2019 年度入選

1. 環境パトロール

2021年度、富士山は一年ぶりで開山した。しかし、再び新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、緊急事態宣言やまん延防止が発出され、登山者、来訪者は大幅に減少した。私達の合同環境パトロールもこの影響で自粛回数が増え、また、天候不順もあり、合同環境パトロールは今年度内は4月、10月、11月、12月の4回のみ実施した。合同でのパトロールを自粛した代わりに、個別の環境パトロールが増加した。

(注 2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、全期間を通じて富士宮口、御殿場口、須走口の各登山道は閉鎖された。また、富士山南麓の富士山自然休養林ハイキング・コースは部分的に立入り規制された)。

1-1 環境パトロール区域(図中青線部分)

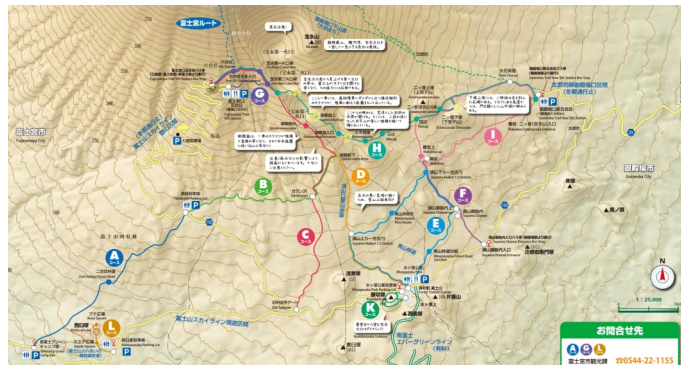
2021年度は、コロナ禍前のように山頂への環境パトロールも再開した。



(図 2021年度の環境パトロール・コース)



(図 2020年度の環境パトロール・コース)



(図 「富士山自然休養林ハイキングマップ」より)

1-2 環境パトロール履歴

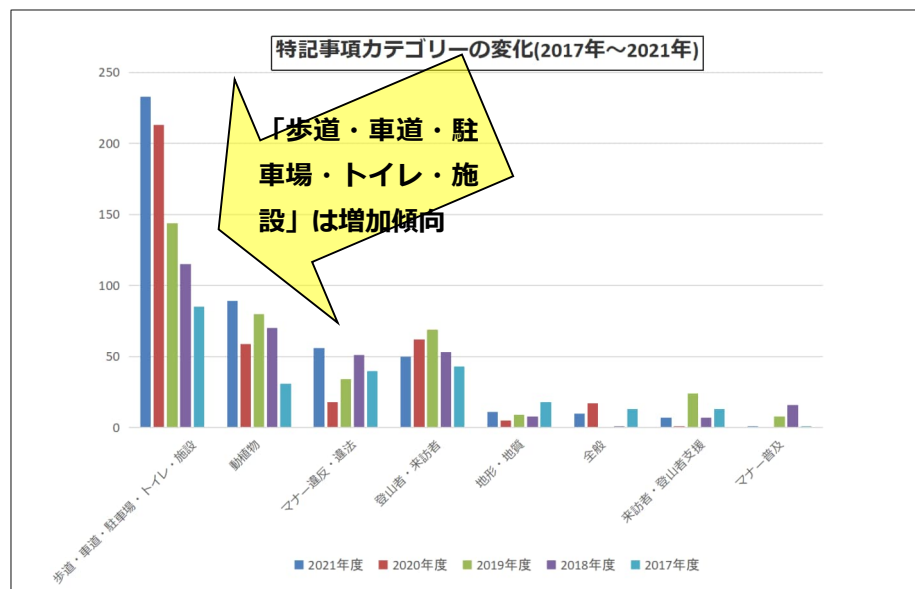
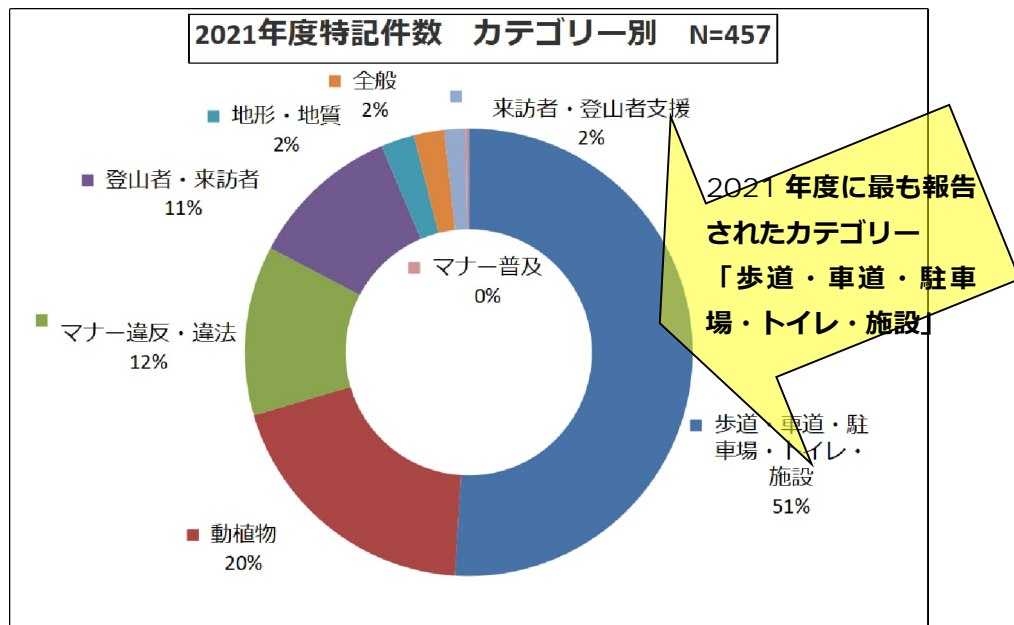
合: 合同環境パトロール、環: 環境パトロール、防: 外来植物等防除、アルファベットは富士山自然休養林のハイキング・コース

①	2021年4月24日	合	須山口登山歩道(弁当場・フジバラ平・大調整池・黒塚・弁当場)
②	2021年4月24日	環	自然休養林 D/E コース(水ヶ塚公園・須山口1.5合・水ヶ塚公園)
③	2021年5月12日	環	自然休養林 I、H コース(御殿場口新五合目・ニツ塚下塚・三ツ辻・幕岩・御殿場口新五合目)
④	2021年5月15日	環	自然休養林 I コース(御殿場口新五合目・幕岩・ニツ塚・御殿場口新五合目)
⑤	2021年5月30日	環	自然休養林 D、C コース(水ヶ塚公園・宝永第一火口縁・御殿庭下・水ヶ塚公園)
⑥	2021年6月9日	環	自然休養林 J コース(須走口五合目・小富士・須走口五合目)
⑦	2021年6月13日	環	自然休養林 M コース(須走口五合目・まぼろしの滝・須走口五合目)
⑧	2021年6月18日	環	自然休養林 G コース(富士宮口五合目・宝永第一火口縁・富士宮口五合目)、宝永山(往復)
⑨	2021年6月24日	環	村山口登山道(旧料金所・富士宮口六合目・スカイライン登山交差・旧料金所)
⑩	2021年6月26日	環	須山口登山歩道(水ヶ塚公園・フジバラ平・水ヶ塚公園)
⑪	2021年7月6日	環	宝永山(富士宮口五合目・宝永山・富士宮口五合目)
⑫	2021年7月7日	環	自然休養林 L コース(西臼塚)、自然休養林 K コース(腰切塚)
⑬	2021年7月11日	環	自然休養林 I コース(御殿場口新五合目・幕岩・三ツ辻・ニツ塚下塚・御殿場口新五合目)
⑭	2021年7月19日	環	富士宮口(富士宮口五合目・山頂・富士宮口五合目)
⑮	2021年7月20日	環	水ヶ塚公園、富士宮口(富士宮口五合目・元祖七合目・富士宮口五合目)
⑯	2021年7月22日	環	富士宮口(富士宮口五合目・頂上剣ヶ峰・富士宮口五合目)
⑰	2021年7月23日	環	自然休養林 G コース(富士宮口五合目・宝永第一火口縁・富士宮口五合目)、宝永火口(往復)
⑱	2021年7月25日	環	自然休養林 C2 コース(旧料金所・ガラン沢 1724m・旧料金所)
⑲	2021年7月29日	環	須走口(五合目・新六合目・砂走り・五合目)
⑳	2021年7月31日	環	富士宮口(五合目・八合目・六合目)、自然休養林 G コース(六合目・五合目)
㉑	2021年7月31日	環	富士宮口(五合目・山頂剣ヶ峰・五合目)
㉒	2021年8月1日	環	自然休養林 D、C、H コース(水ヶ塚公園・宝永第二火口縁・御殿庭入口・旧料金所ゲート)
㉓	2021年8月5日	環	プリンスルート(富士宮口五合目・山頂)、富士宮口(頂上・富士宮口五合目)
㉔	2021年8月7日	環	富士宮口(五合目・六合目)、宝永山、富士宮口(六合目・五合目)
㉕	2021年8月20日	環	自然休養林 F、E コース(須山御胎内入口・下り 1.5 合・南山林道・須山御胎内入口)
㉖	2021年8月21日	環	自然休養林 G コース(富士宮口五合目・宝永第一火口縁・富士宮口五合目)、宝永火口(往復)
㉗	2021年8月24日	環	自然休養林 E コース(水ヶ塚公園・登 1.5 合・幕岩・御胎内・水ヶ塚公園)
㉘	2021年8月28日	環	御殿場口(新五合目・六合目・下り六合・大砂走り・新五合目)
㉙	2021年9月7日	環	須走口(五合目・七合目太陽館・砂走り・五合目)
㉚	2021年9月11日	環	富士宮口(富士宮口五合目、六合目)、宝永山
㉛	2021年9月13日	環	自然休養林 G コース(富士宮口五合目・六合目・宝永第二火口縁・富士宮口五合目)、宝永山
㉜	2021年9月16日	環	自然休養林 I コース(御殿場口新五合目・幕岩・四ツ辻・ニツ塚下塚・御殿場口新五合目)
㉝	2021年9月20日	環	火山荒原(御殿場口新五合目・成就沢・獅子岩・御殿場口新五合目)
㉞	2021年9月23日	環	自然休養林 D、H、F、E コース(水ヶ塚公園・御殿庭下・三ツ辻・幕岩・水ヶ塚公園)
㉟	2021年10月2日	環	宝永山(富士宮口五合目・宝永山・富士宮口五合目)
㊱	2021年10月9日	合	自然休養林 E、K コース(水ヶ塚公園・御胎内・下山歩道 1.5 合・腰切塚・水ヶ塚公園)
㊲	2021年10月11日	環	自然休養林 L コース(西臼塚)
㊳	2021年10月15日	環	自然休養林 D/E、C、H コース(水ヶ塚公園・宝永第二火口縁・御殿庭入口・水ヶ塚公園)
㊴	2021年11月2日	環	自然休養林 G コース(富士宮口五合目・六合目・宝永第二火口縁・富士宮口五合目)、宝永山
㊵	2021年11月10日	環	自然休養林 C2 ハイキングコース(旧料金所ゲート・旧 CD 間連絡路・旧料金所ゲート)
㊶	2021年11月13日	合	自然休養林 D、C2 ハイキングコース(水ヶ塚公園・御殿庭下・ガラン沢・旧料金所)
㊷	2021年11月14日	防	西臼塚駐車場
㊸	2021年12月4日	合	自然休養林 C、B、A、L コース(旧料金所ゲート・ガラン沢・高鉢駐車場・西臼塚駐車場)
㊹	2021年12月4日	環	自然休養林 L コース。西臼塚富士山ふれあいの森林遊歩道
㊺	2022年1月1日	環	自然休養林 K コース(水ヶ塚公園・腰切塚・水ヶ塚公園)
㊻	2022年1月14日	環	須山口登山歩道(水ヶ塚公園・片蓋山・南尾根・水ヶ塚公園)
㊼	2022年3月25日	環	須山口登山歩道(水ヶ塚公園・片蓋山・南尾根・水ヶ塚公園)、旧東臼塚遊歩道

1-3 カテゴリー別報告内容(2021年度)

環境パトロール中に、「自然環境への負荷」や「来訪者の安全面」での気づきを報告書に記載した。その気づきを、カテゴリー別に集計した。「歩道・車道・駐車場・トイレ・施設」が増加傾向が目立ち、2021年度は昨年と比べて「動植物」と「マナー違反・違法」の気づきが増加した。

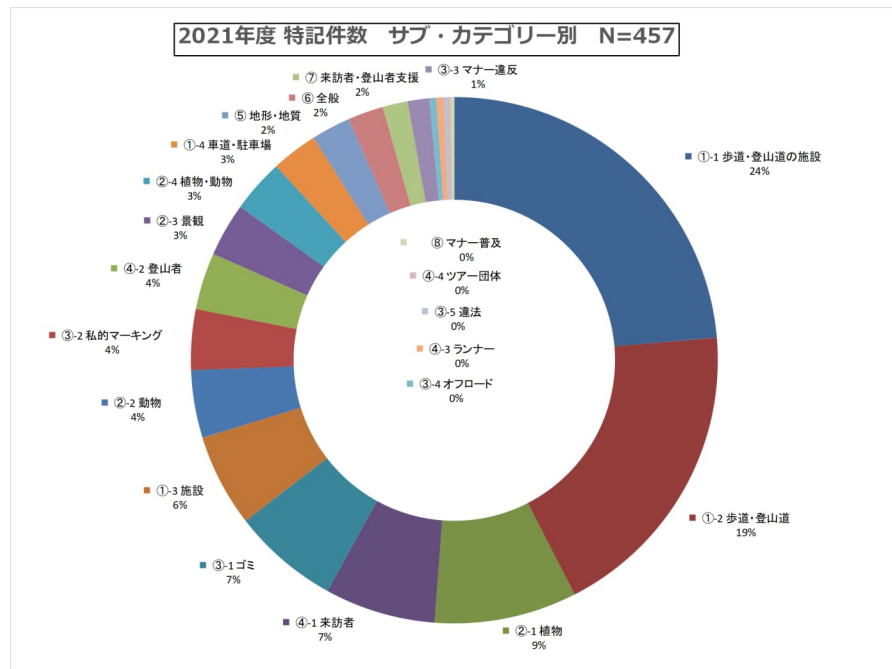
	カテゴリー	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
①	歩道・車道・駐車場・トイレ・施設	233	213	144	115	85
②	動植物	89	59	80	70	31
③	マナー違反・違法	56	18	34	51	40
④	登山者・来訪者	50	62	69	53	43
⑤	地形・地質	11	5	9	8	18
⑥	全般	10	17	0	1	13
⑦	来訪者・登山者支援	7	1	24	7	13
⑧	マナー普及	1	0	8	16	1
	合計	457	375	368	321	244



2. 気づきの要約(2021年度)

今年度は新型コロナウイルス感染症対策を十分にとり、1年ぶりで富士山は開山した。しかし、新型コロナウイルス感染急拡大で緊急事態宣言が発出され、登山者数は2019年の四分の一、約7万9千人だった(環境省資料)。富士山エコレンジャーは、山頂への環境パトロールを再開し、自然休養林ハイキング・コースやウルトラトレイル・マウントフジ植生保全環境調査地の須山口登山歩道の環境パトロールも行った。これらの環境パトロールで報告された「気づき」を報告件数順に見てみる。

	サブ・カテゴリー	件数
①-1	歩道・登山道の施設	108
①-2	歩道・登山道	86
②-1	植物	40
④-1	来訪者	31
③-1	ゴミ	30
①-3	施設	26
②-2	動物	19
③-2	私的マーキング	17
④-2	登山者	16
②-3	景観	15
②-4	植物・動物	15
①-4	車道・駐車場	13
⑤	地形・地質	11
⑥	全般	10
⑦	来訪者・登山者支援	7
③-3	マナー違反	6
③-4	オフロード	2
④-3	ランナー	2
③-5	違法	1
④-4	ツアー団体	1
⑧	マナー普及	1



● サブ・カテゴリーの中では、標識や歩道階段などの「歩道・登山道の施設」関連が最も多い(24%)。定期的な補修、整備が行われている場所は、来訪者が安心して安全に自然に親しめる。一方、標準標識の破損、標識の不足、使われる地名に誤解を生みやすい標識や案内図、丸太階段の腐食など改善要望は、今年も多数報告されている。これらは、来訪者の安全に直接関わるものであり、迅速な対策が必要だ。しかし、毎年同じ内容の歩道・登山道の施設損傷が報告されているにもかかわらず、改修や改善が追いつかない(行われていない)のが現状だ。

腰切塚を回るKコースでは、展望台が再建築され、富士山南麓の景観が眼前に広がり、来訪者のビュースポットになっている。しかし、残念なことに展望台に至る歩道の丸太階段は腐食し侵食のためハードル化している危険な状態のままで、実際、環境パトロール中に捻挫事故が起こった。新たな施設を整備する際は、アクセス歩道の施設も含めて見直し整備が必要だ。

富士山南麓は年間3,000mmを超える降雨量があり、樹林帯では土壌侵食が起きやすい。また、強風が火山堆積物を吹き飛ばしている側火山地帯だ。こうした自然環境の特質により、丸太階段の腐食、ハードル化、標識の摩耗など歩道・登山道の施設の損傷がみられる。来訪者の安全のためには富士山固有の自然条件を考慮した歩道・登山道の施設づくりが求められている。

● ついで2番目は、「歩道・登山道」が続く(19%)。ハイキング・コースや登山道自体の侵食、拡幅、複線化などだ。前項で説明したように、富士山南麓の樹林帯(主として自然休養林)では、地形・地質・気象など自然環境や気候変動の影響により、スラッシュ雪崩、土石流や土壌侵食、崩壊・崩落箇所が多い。歩道も大雨になると川(水ミチ)となり、激しく土壌侵食が進む場所がある。

加えて、近年「走行」や「富士下山」のような「歩道に大きな負荷をかける利用者の急増」によ

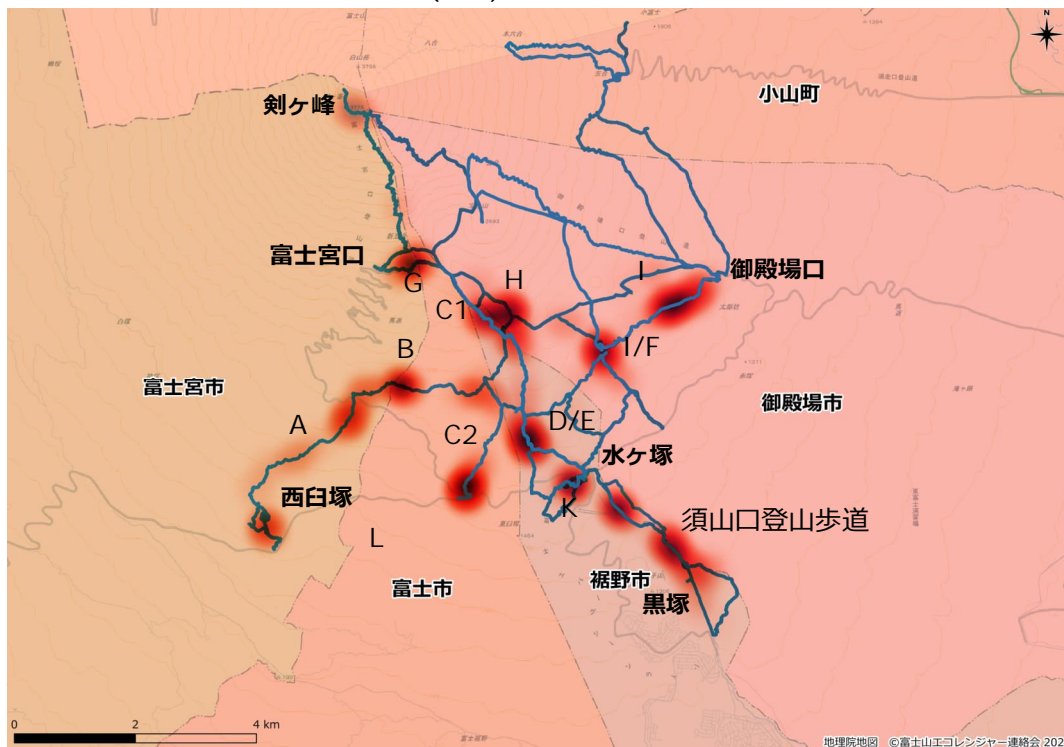
り、人為による土壌侵食が加速化している。自然侵食に人為侵食も加わり、現状では、なかなか補修が追いつかず、躓いたり不安定な歩道が多く、安心して自然に親しむことが困難な場所が増えている。

一旦歩道が荒れ通過しづらい箇所ができると、来訪者は荒廃箇所を避けるため歩道の幅が広がり、複線化も進み、歩道周辺の貴重な植生を損傷する。

さらに、国民が自然に親しむために設けられた自然休養林は近年、様々な影響で林床を覆っていたスズタケが消失し、どこまでも見通しが効く状態になっている。そのため来訪者は、林内を自由に移動でき、荒れた歩道を避けて足に負担が少ない林床の植生上に幾筋もの踏み跡を残すので、道迷いが起こりやすい。

その踏み跡に、目立つピンクのビニール・テープなど設置者や行き先が表示されない私的マーキングが数多く付けられ、他の来訪者を誘導して林床の植生損傷を拡大している。特にタイムレースのランナーは直線的に走りがちで土壌への衝撃も大きく、踏み跡は水ミチになりやすい。修復が遅れ荒廃がすすむ歩道とともに、多数の踏み跡も土壌侵食が加速している。

富士山では、地元自治体によるスポーツ観光利用や下山観光利用が推進されている(注1)。森林生態系を保護する目的で国有林内に設定された富士山生物群集保護林の中でさえ、踏み跡をトレイルランニングのコースに利用し、時間を競うタイムトライアルが行われ、その情報がネット上に拡散されているため、ランニング利用者が後を絶たず、歩道外の土壌侵食や樹木根の露出・踏みつけなど植生損傷に至る所で増え続けている(注2)。



(図) 歩道・登山道の荒廃地点。赤色の濃い所ほど、多くの荒廃、英字はハイキング・コース)

(注1) 自然環境保全地域での地元自治体によるスポーツ観光利用や下山観光利用の現状

富士山南麓の地元自治体ではスポーツ観光施策や下山利用施策を通じて富士山南麓の自然環境利用を推進している。主なものだけでも、ランニングを中心に多岐にわたる。

- －御殿場市、富士宮市、富士市、裾野市によるウルトラトレイル・マウントフジ(以下 UTMF)大会共催。
- －御殿場市①トレイルステーションやネット(ランドネ等)による自然休養林でのトレイル・ランニング推進、
- ②「富士登山駅伝競走大会での御殿場口登山道(歩道)の利用。

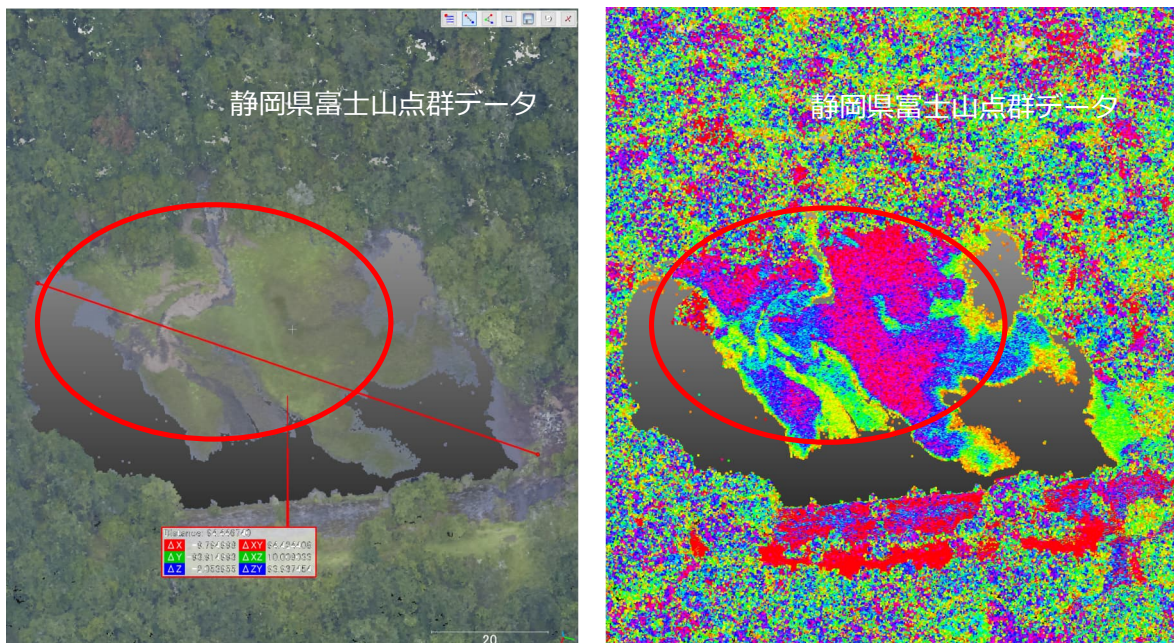
—裾野市①水ヶ塚周辺の「準高地トレーニング場」化、②富士山生物群集保護林を通過する自然休養林ハイキング・コースをトレラン・コースとして推進、③水ヶ塚公園の腰切塚麓に「クロカン・コース」設定。
 —静岡県側富士山周辺4市1町の観光団体は、「しずおか富士山利活用推進協議会」を2020年4月に組織し、「富士下山のすゝめ」と題した事業を実施。

(注2) 環境調査や環境パトロールからの知見

2012年以降、私達が継続的に実施している「ウルトラトレイル・マウントフジ植生保全環境調査」や環境パトロールから、富士山南麓でのトレイル・ランニングに起因する荒廃について分かってきたことがある。

- ①富士山南麓の自然環境で、歩道の支持力を超えた負荷が大きな利用を繰り返すと、利用した歩道は、その後、地形・地質、降雨などによって土壌侵食が加速し、荒廃が頻発し激化する。一旦、荒廃すると原状回復が困難なケースも発生し、修復に多大な労力と年月を必要とする。場合によっては廃道化する。
- ②富士山が「競走場」と化している。国立公園内でランナーが増加し、タイムトライアル・レースが数多くおこなわれている。国有林の自然休養林では、富士山生物群集保護林もふくめて土壌侵食で荒廃した歩道の整備が追いつかず、通過しづらくなった歩道を避けて、歩道外の植生損傷(歩道の拡幅や複線化、土壌侵食が加速する直線的利用)が多発している。世界文化遺産の登山歩道も例外ではない。

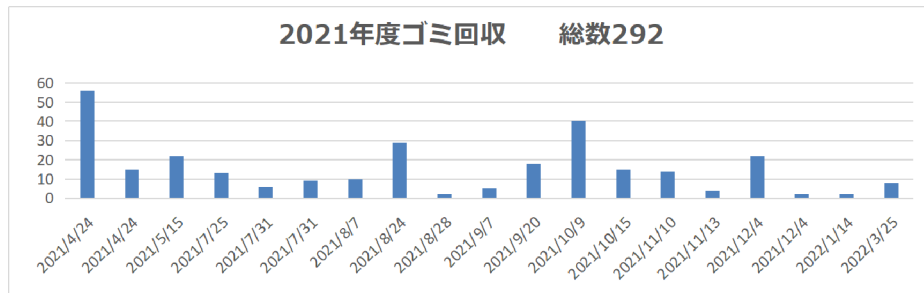
● 3番目の「植物」(9%)は、年々広がる外来植物、国内外来植物が今年度も報告された。特定の場所での外来植物が毎年繰り返し報告され(黒塚北東の調整池など)、外来植物の駆除活動が追いついていない。富士山周辺での「ナラ枯れ」拡大が昨年度報告されたが、本年もあらたに自然休養林の標高1,600m付近までミズナラの「ナラ枯れ」が広がった。一方、自然休養林の林床景観を一変させたスズタケの消失は、依然として広く見られる。しかし、場所によってはスズタケの実生が群生している事例が報告された。



(図 黒塚北東の調整池、外来種ハルゼギヤマガラスの大規模な群生。右図の濃いピンク色の部分)

● 「来訪者」の利用状況が4番目に多く報告されている(7%)。新型コロナの非常事態宣言の発出はあったものの、四季を通じて富士山南麓で来訪者に出会った。コロナ禍の現在でも、富士山自然休養林を利用する人は、一定数いる。来訪者が安全に自然に触れ、学び、親しむことができるようにすることは、富士山憲章が目指す最初の一步だ。

● 5番目は「**ゴミ**」(各7%)。毎回のように環境パトロールでゴミの回収を行った。御殿場口からニツ塚にかけては、歩道に個人で搬出が困難な旧スキー場のコンクリート・ブロックや鉄製ケーブルが放置されたままの状態が続いていて、ハイカーやランナーが足を引っ掛ける恐れがある。また、数多くのタイヤが放置され景観を損ねている。同様に、外来植物ハルザキヤマガラシが多い黒塚北東の調整池でも大量のゴミが放置されている*。毎年、関係者に報告しているが、対応は取られていない。本格的なゴミ回収を企画する必要を強く感じる。(*2022年4月調整池のゴミ回収済)



● 6番目の「**施設**」(6%)では、富士宮口五合目の火災で使えなくなったレストハウスへの対策として設置された、仮設トイレや休憩施設などの状況が報告された。御殿場口登山道はトイレが少なく、携帯トイレが必要で、御殿場口新五合目のリニューアルされた公衆トイレ(エコトイレ)での携帯トイレ回収BOXの常時設置とトレイルステーションでの携帯トイレ販売(もしくは、協力金のお礼に配布)などの要望があった。「西臼塚ふれあいの森は、四季を通じて利用者が訪れ、自然と触れあえる貴重な場所なので、夏シーズンしかバイオトイレが利用できないのなら、夏以外の来訪者のために、移動できる工事用トイレボックスを設置してもらえると野外排泄をしなくて済む」という要望があった。

腰切塚麓のクロカン・コースでは、斜面上の走路で雨水侵食が起き、大雨によってウッドチップが植生部分へ流出していた。クロカン・コースの部分的な修復作業が行われたようだが、管理者はぜひ傾斜地の現場を定期的に実地調査され、植生への負荷を減らす対策を講じてほしい。

● 7番目の「**動物**」(4%)では、富士山南麓の森林生態系に大きな影響を及ぼしているニホンジカの痕跡はあるものの、昨年と同様に目撃回数が減った。須山口登山歩道1.5合目付近では、センサーカメラの記録でも9年前に比べてニホンジカの撮影頻度が減少している。ただ、片蓋山周辺は依然としてニホンジカの痕跡が多いとの報告がある。センサーカメラにはタヌキやニホンアナグマ、ハクビシン、キツネやテンも記録された。環境パトロール中にリスが目撃された。イワヒバリ、ビンズイ、カヤクグリ、ウグイス、ヒガラ、ルリビタキ、メボソムシクイ、アカゲラなどの野鳥が観察された。

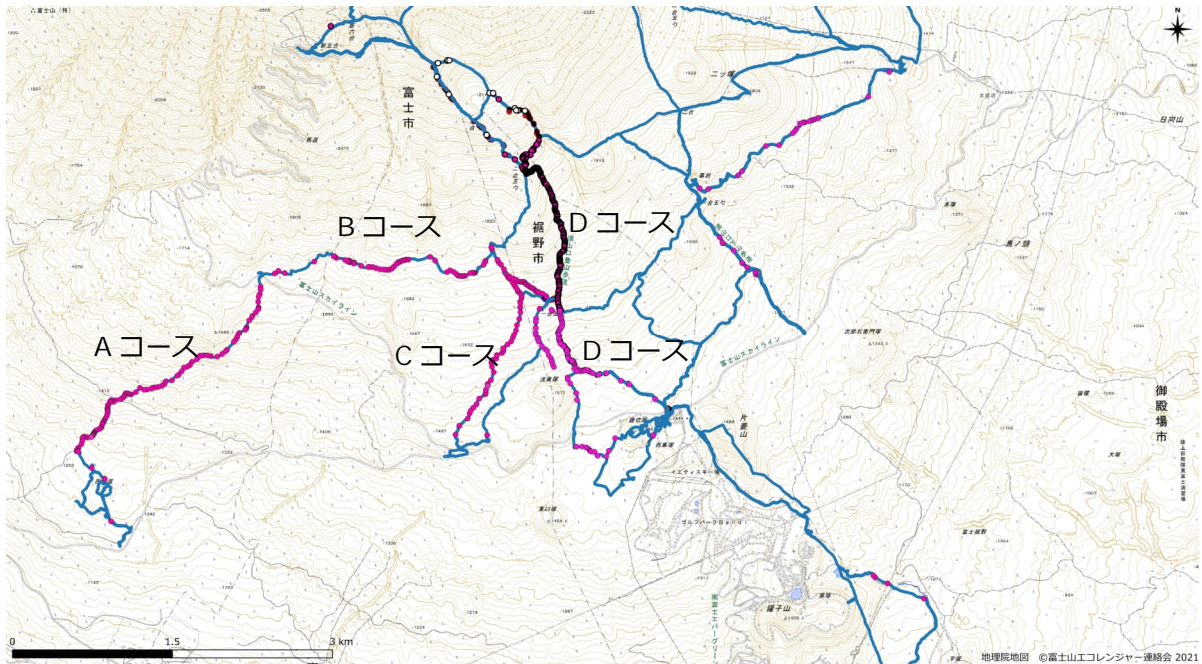
● 8番目は「**私的マーキング**」(4%)。管理者が設置する標準の標識とは異なり、管理者名や行き先などを表示していない、枝に付けられたビニール・テープや岩や樹木に直接ペイントされたマークをさす。富士山自然休養林のハイキング・コースには、歩道の侵食荒廃箇所が多く、短い距離の迂回を示している場合がある。場所によっては、見通しが効く林内の植生に踏み込み、直線的に私的マーキングがつけられるため、私的マーキングに誘導されて来訪者が林床に入り込み、踏み跡が幾筋もでき、林内の植生損傷や土壌侵食を起こしている場合もある。

歩道も標識も整備されている区間にまで、大量の派手なピンク色の私的マーキングが付けられ、風致景観を損なっている場合もある。Dコースの須山口登山歩道1.5合目から御殿庭下の区間でピンク色の私的マーキングが昨年11月と比べて急増した。およそ1,500mで、その間に131本のビ

2022年6月19日

ニールテープを記録した。この間の私的マーキングは平均約12m間隔になる。私的マーキングは協議会や保存会の標準標識にまで付けられたものもある。同様にCコースでも急増が見られた。

こうした私的マーキングを見ると、これらの設置目的は、公共の登山道やハイキングコースの道標(みちしるべ)とは考えにくい。この派手な私的マーキングばかり目立つので歩道周辺の枯損木や掛り木に付けられた注意喚起のマーキングが目立たなくなり、風光明媚な御殿庭の景観を損なっている。おそらく設置目的は、トレランのコース設定やコースに不慣れなツアーガイド用など考えられる。管理者に「私的マーキングへの公的な取り扱い」を示すようお願いし続けているのに返答いただけていない。取り扱いルールができれば、環境パトロール中に対応したい。



(図 私的マーキングの設置状況。ピンク色の丸はビニールテープや樹幹に直接ペイントしたもの。白色の丸は岩に直接ペイントしたもの)

環境パトロールの「気づき」詳細編

	頁
1. 歩道・登山道の施設	10
2. 歩道・登山道	14
3. 植物	22
4. ゴミ	24
5. 施設	25
6. 動物	27
7. 私的マーキング	28
8. 植物・動物	35
9. オフロード	36

1. 「歩道・登山道の施設」

報告された気づきの中では、標識や歩道階段などの「歩道・登山道の施設」関連が最も多い。定期的な補修、整備が行われている場所は、来訪者が安心して安全に自然に親しめる。一方、標準標識の破損、標識の不足、使われる地名に誤解を生みやすい標識や案内図、丸太階段の腐食など改善要望は、今年も多数報告されている。これらは、来訪者の安全に直接関わるものであり、迅速な対策が必要だ。しかし、毎年同じ内容の歩道・登山道の施設損傷が報告されているにも関わらず、改修や改善が追いつかない(行われていない)のが現状だ。

腰切塚を回るKコースでは、展望台が再建築され、富士山南麓の景観が眼前に広がり、来訪者のビュースポットになっている。しかし、残念なことに展望台に至る歩道の丸太階段は腐食し侵食のためハードル化している危険な状態のままで、実際、環境パトロール中に捻挫事故が起こった。新たな施設を整備する際は、アクセス歩道の施設も含めて見直し整備が必要だ。

富士山南麓は年間3,000mmを超える降雨量があり、樹林帯では土壌侵食が起きやすい。また、強風が火山堆積物を吹き飛ばしている側火山地帯だ。こうした自然環境の特質により、丸太階段の腐食、ハードル化、標識の摩耗など歩道・登山道の施設の損傷がみられる。来訪者の安全のためには富士山固有の自然条件を考慮した歩道・登山道の施設づくりが求められている。



(腐食で滑りやすい丸太階段、黒塚南鉄塔脇)



(立杭の増加、複線化、御釜塚東側崩壊崖迂回路)



(さらに侵食が進んだ丸太階段跡、大調整池直下)



(同、2018年迂回路としてつくられた丸太階段)



(乗ったら移動した危険な丸太、黒塚南斜面)



(標識の欠損、御殿場口新五合目駐車場すぐ上)



(コースは左へ向かうが迷いやすい標識、Cコース)



(標識もなく歩道入り口が不明、Mコース)



(誘導ロープ随所で破断、宝永第一火口)



(読めない案内板、宝永第一火口)



(文字面が摩耗した標識、宝永山分岐)



(腐食して倒れたベンチ、Eコース水平歩道)



(文字面が摩耗した標識、御殿場口旧六合分岐)



(幕岩方面の標識がない、須山御胎内の分岐)



(木段がハードル化し歩きづらい、Kコース)



(同、バランスを崩し捻挫。湿布の応急手当)



(土砂が流れ段差が大きく通行困難、Lコース)



(斜面を約 30m 移動の標識「旧山体観測装置」)



(ガラン沢東側の木段流失、Bコース)



(木段流出で危険な斜面歩道、Bコース)



(不動沢下降部の侵食、Bコース)



(日沢の侵食、Bコース)



(土留め階段の破損、Bコース)



(腐食した丸太階段、Lコース)

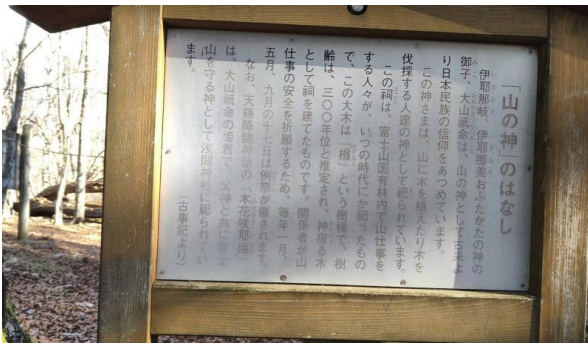


(階段流出、Lコース)



(激しい浸食がみられ、丸太階段が危険な状態。、西臼塚Lコース)





(掲示板劣化や汚れで来訪者に伝えたい内容が伝わらない、西臼塚Lコース)

● 別の地点に同じ地名の標識

Cコースの須山口登山歩道には、富士山須山口登山道保存会と富士山自然休養林保護管理協議会の登山案内図・標準標識が併設されている(富士山須山口登山道保存会は富士山自然休養林保護管理協議会の構成員)。これらの案内板・標識のなかで「御殿庭上」という地名が異なる場所に使われ、来訪者の混乱を招いている。宝永第三火口西側のCコース(須山口登山歩道)に、保存会の「御殿庭上」(標高2270m)標識がある。一方、宝永第三火口東側、H(宝永火口縁～二つ塚～御殿場口新五合目)コースに、協議会の「御殿庭上」(標高2170m)標準標識がある。両者は直線距離にして約500m近く離れており、登山道を歩けば30分～50分の距離にある。



(保存会案内図 Cコース歩道に「御殿庭上」)



(協議会の案内図 Hコースに「御殿庭上」)



(Cコースの保存会「御殿庭上」、標高2270m)



(Hコースの協議会「御殿庭上」、標高2170m)



左側の写真は、須山口登山3合目、「御殿庭中」の保存会の標識。この標識に『御殿庭上に至る』と表記してあるとおり、指し示す須山口登山歩道の方に保存会の「御殿庭上」がある。一方、右側に進むと、宝永第三火口底をへて協議会の「御殿庭上」に至る。

Cコース(須山口登山歩道)は、富士山における適正利用推進協議会の「富士山における標識類総合ガイドライン」でいう、「宝永山御殿庭線」にあたり、同ガイドラインの適用範囲であり、標識や地名の統一などガイドライン遵守が要請される。利用者の安全と利便を確保するとともに、秩序ある良好な風致景観を維持及び形成するため、関係行政は標識の統合と地名の統一などを歩道管理者へ指導するようお願いしたい。

この件は2011年から再三報告し、改善をお願いし続けているが11年間何の対応もない。世界文化遺産かつ特別名勝富士山、日本有数の国立公園の富士山にとって、また、来訪者の期待や地元の地域振興にとっても負の影響を与えることを避けるためにも、きちんとした対策を施していただきたい。

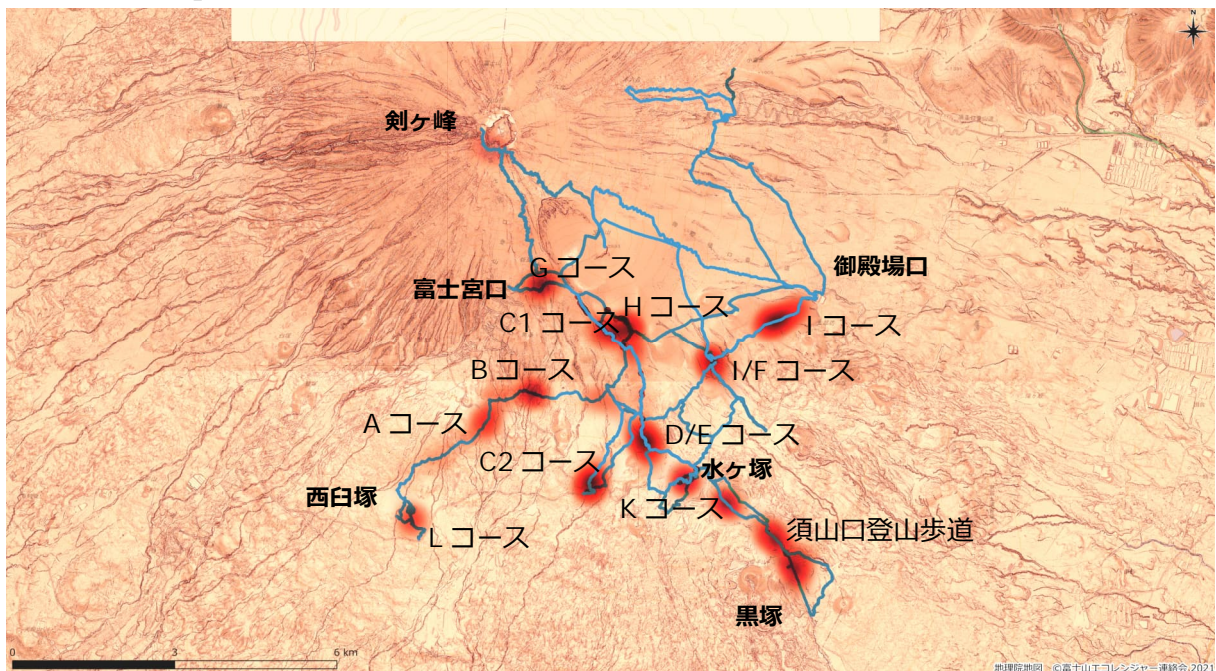
● 総称「御殿庭」とは？

また、協議会の歩道案内図には、御殿庭一帯を示す総称としての「御殿庭」は表示されていない(前頁の協議会案内図参照)。にも関わらず、個々の協議会標識には、この総称の「御殿庭」が行き先の地名として使われている。標識の行き先が総称の「御殿庭」では、御殿庭一帯で、「御殿庭(下)」、「御殿庭(中)」、「御殿庭(上)」、「御殿庭入り口」のいずれの地点を指すのか分からない。また、それぞれの地点によって表記している所要時間は変わる。この総称「御殿庭」表記が、御殿庭入り口、御殿庭(上)、御殿庭(中)などの各標識に使われている。表記の見直しをお願いしたい。



(左側矢印に「御殿庭」、所要時間から「御殿庭(下)」) (御殿庭下の標識は「御殿庭(下)」と明示)

2. 「歩道・登山道」



(図 歩道・登山道の荒廃地点。赤色の濃い所ほど多くの荒廃を録。背景は静岡県CS立体図)

ハイキング・コースや登山道自体の侵食、拡幅、複線化などだ。前項で説明したように、富士山南麓の樹林帯(主として自然休養林)では、地形・地質・気象など自然環境や気候変動の影響により、スラッシュ雪崩、土石流や土壌侵食、崩壊・崩落箇所が多い。歩道も大雨になると川(水ミチ)となり、激しく土壌侵食が進む場所がある。

加えて、近年「走行」や「富士下山」のような「歩道に大きな負荷をかける利用者の急増」により、人為による土壌侵食が加速化している。自然侵食に人為侵食も加わり、現状では、なかなか補修が追いつかず、躓いたり不安定な歩道が多く、安心して自然に親しむことが困難な場所が増えている。一旦歩道が荒れ通過しづらい箇所ができると、来訪者は荒廃箇所を避けるため歩道の幅が広がり、複線化も進み、歩道周辺の貴重な植生を損傷する。

さらに、国民が自然に親しむために設けられた自然休養林は近年、様々な影響で林床を覆っていたスズタケが消失し、どこまでも見通しが効く状態になっている。そのため来訪者は、林内を自由に移動でき、荒れた歩道を避けて足に負担が少ない林床の植生上に幾筋もの踏み跡を残すので、道迷いが起こりやすい。

その踏み跡に沿って、目立つピンクのビニール・テープなど設置者や行き先が表示されない私的マーキングが数多く付けられ、他の来訪者を誘導して林床の植生損傷を拡大している。特にタイムレースのランナーは直線的に走りがちで土壌への衝撃も大きく、踏み跡は水ミチになりやすい。修復が遅れ荒廃がすすむ歩道とともに、多数の踏み跡も土壌侵食が加速している。

富士山では、地元自治体によるスポーツ観光利用や下山観光利用が推進されている。森林生態系を保護する目的で国有林内に設定された富士山生物群集保護林の中でさえ、踏み跡をトレイルランニングのコースに利用し、時間を競うタイムトライアルが行われ、その情報がネット上に拡散されているため、ランニング利用者が後を絶たず、歩道外の土壌侵食や樹木根の露出・踏みつけなど植生損傷が至る所で増え続けている。

2-(1) 須山口登山歩道(弁当場～黒塚～水ヶ塚公園)



(UTMF 後更に荒廃した斜面、黒塚北東)



(同、2016年9月UTMF雨天決行後)



(侵食で樹木根露出、損傷、黒塚南東)



(対岸の崩落で倒木、旧ゴルフ場東側)

2-(2) Iコース(御殿場口新五合目～幕岩～ニツ塚周遊)、Fコース(須山口下山歩道～幕岩)

この区間では、荒廃箇所は樹林帯の「傾斜地」に集中している。特に、Iコースの御殿場口新五合目・幕岩間。また、幕岩近くのFコース世界文化遺産「須山口登山道」の幕岩上・須山口下山歩道一合五尺間。ともに、歩道の拡幅や複線化と樹木根や植生損傷が目立った。

水切りの設置など補修作業は定期的に行われている。が、近年は衝撃が大きな集団走行やランナーのタイムトライアル、大勢の来訪者など歩道や周辺への負荷が急増しているため保全が追いつかない。

「踏みつけを避ける木道設置」や「ガイドロープによる誘導」など歩道周辺の植生保全により、来訪者に安全安心で変化に富んだ自然に親しめる、質の高い自然体験が提供できるようにお願いしたい。



(歩道侵食、複線化、植生損傷、Iコース)



(根の露出損傷、歩道複線化、Iコース)

幕岩近く世界文化遺産に登録された須山口下山歩道は、小さな尾根を緩やかに蛇行しながら登っている。協議会の標準補助標識も設置されている。ところが2013年の大規模トレイルラン・レース前後に、その歩道のすぐ東側に直線的な踏み跡が付けられ、以降、その踏み跡を来訪者が利用し複線化した。このレース以降できた迂回路の東側の砂沢右岸は年々崩壊が拡大し、新たな迂回路との最短距離で約20数mまで迫っている。また、その上部では、直線的な踏み跡が加わり、本来の歩道の拡幅、複線化が生じている。保全を大前提としている「世界文化遺産の歩道」の整備と、安全な利用ガイドラインが要請される。



(図 世界文化遺産の須山口下山歩道の複線化)



(崩壊が進む砂沢右岸)



(歩道複線化、樹木根損傷、植生損傷)



(直線的迂回路、歩道拡幅、樹木根や植生損傷)

幕岩から尾根上の幕岩分岐(須山口下山歩道)へつなぐ斜面の歩道は、昨年と比べ、侵食箇所の補修や新たなガイドロープ設置、締め直しなど整備されていた(2021年5月)。しかし、崩落が進む砂沢右岸と同様な地質を持つこの急傾斜地に付けられた歩道は、定期的な補修にかかわらず、侵食と来訪者の踏圧によって荒れやすく、丸太階段が損傷し複線化や拡幅、さらに周辺の植生損傷が起きやすい。

実際、この急斜面の丸太階段歩道は、雨シーズンに侵食が一気に進んだ(2021年8月)。通行困難な箇所を避け歩道外への踏み出し(拡幅や複線化)によって、来訪者の通行安全へ悪影響を与え、歩道周辺の貴重な植物を損傷する恐れがある。大勢の来訪者の踏圧、ランニング衝撃に耐えるには、専門家による調査を行い、木道化など富士山南麓の自然環境に適した本格的な整備が必要だ。



(ミズ道化した歩道の侵食、樹木根が露出)



(歩き辛い右側を避け左側の流失した木段部に踏み跡)



(崩れやすい砂礫部分の侵食)



(同、例年の大雨後と同様に深く侵食)



(場所によっては危険を感じる下り)

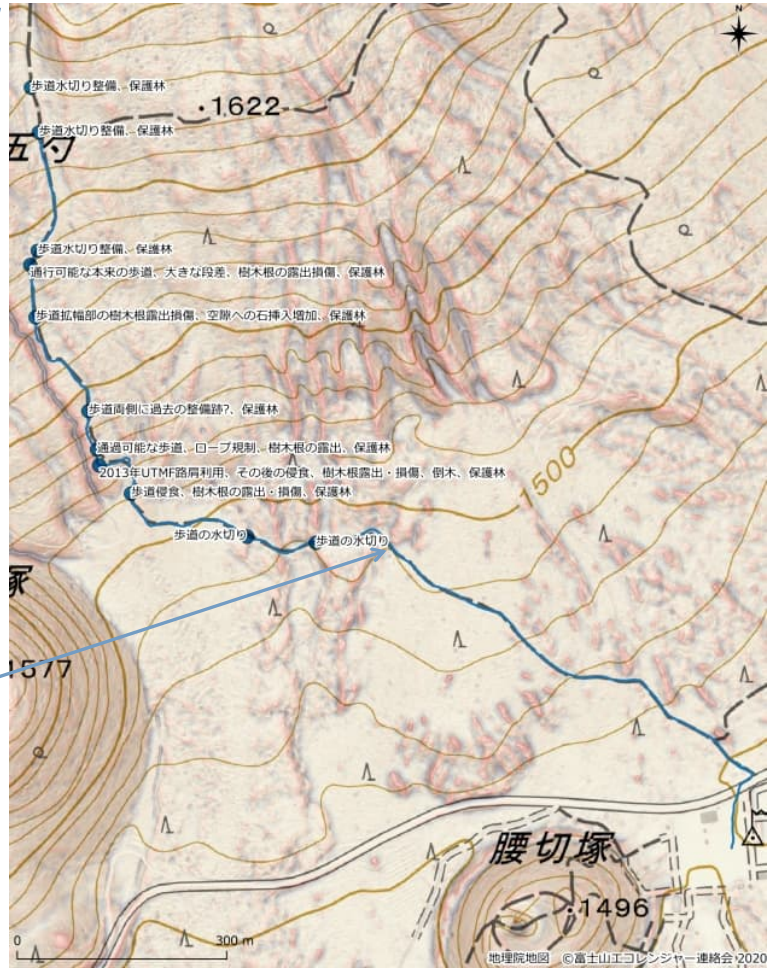


(右側の立杭部分の土台が侵食でなくなり木段流出)

2-(3) Dコース(水ヶ塚公園～御殿庭下)

水ヶ塚公園から須山口 1.5 合目を経て宝永火口縁へ向かう須山口登山歩道のこの区間では、連続した侵食の最上部から、登山歩道がミズ道となり大雨のたびに登山歩道の侵食が深くなっている。この侵食最上部の上側は、宝永第三火口からの流出砂礫の堆積地となっている。この堆積地を通過する雨水が侵食最上部へ集まっている。この集中を避けるために堆積地に複数の水切りをつけ周辺植生部へ雨水を分散させることができれば、今以上の侵食をとめられる。この荒廃区間は、本来の歩道を通することが困難になり、迂回する踏み跡が保護林の林床に無数にある。目立つ私的マーキングに誘導され、来訪者はその踏み跡を利用するため林床の植生損傷が拡大している。(32 頁参照)

(森林計画図、緑枠内は保護林)



(図 須山口登山歩道。水ヶ塚公園から1.5合目まで。青色の線は従来の登山歩道。地理院地図、静岡県CS立体図)



(侵食で大きな根が露出、この地点は補修必要)



(UTMF 後に侵食で路肩が崩れた歩道)



(同地点、2019年8月、段差が大きく通行できなかった)



(同、土砂が流れ堆積して傾斜が緩くなり歩ける)



(過去に保守され今も歩ける従来の登山歩道)



(この段差も歩けたが、石を埋めるなど補修必要)



(浅黄塚東部の歩道脇侵食)



(浅黄塚分岐・1.5合間登山歩道脇の侵食)



(浅黄塚分岐・1.5合間登山歩道脇の侵食)



(浅黄塚分岐・1.5合間登山歩道脇の侵食)



(浅黄塚分岐・1.5合間登山歩道脇の侵食)



(この区間の、連続した登山歩道侵食の最上部)



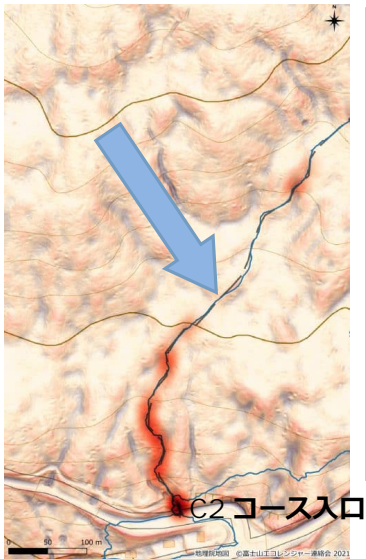
(連続侵食の上手のミズ道化した登山歩道)



(堆積砂礫の歩道にポール方向に水切り設置要望)

2-(4) Cコース(旧料金ゲート～ガラン沢～御殿庭下～富士宮口五合目)

2020年9月のパトロールでは、梅雨や夏の大雨の影響で、旧料金所ゲート近くのハイキングコース入口から約700mの区間の歩道や歩道周辺に侵食による荒廃が目立った。その荒廃箇所が補修されないまま、今年8月18日の豪雨で侵食が驚くほど加速し、一部では崩落箇所が見られた。



荒廃が目立つ侵食箇所
青色の線がパトロール
のコース。赤が濃いほ
ど侵食の影響が大き
い。水色の矢印は雨水
が流れる方向。歩道が
集水域の水ミチとなっ
ている。水切りや水の
流れに配慮した補修工
事が必要と思われる。



2020年9月



2021年6月



2021年12月

(下部が水流で抉られ、崩落、C2コース入り口)



(水ミチ化、樹木根露出・損傷、歩道拡幅)



(水ミチ化、根露出・損傷、歩道拡幅、複線化)



(水ミチ化した歩道を避け複線化、植生損傷)



(洗掘した歩道、脇は植生損傷、C1コース)



(左上の迂回路も水ミチ化、C1コース)

3-(5) Gコース(富士宮五合目～宝永火口縁周遊)

富士宮五合目から火山荒原、宝永火口縁、樹林帯を巡る高山植物や野鳥などの自然や景観に優れたハイキングコース。来訪者は多く、安全確保や植生保全が課題となっている。



(複線化して分りにくい歩道、ガイドロープで規制して植生損傷を防ぎたい、Gコース日沢西側)



(狭く歩きづらい歩道、Gコース日沢横断)



(閉鎖中の登山道脇の抜け道、富士宮口六合目)



(倒木で通過が困難、所謂「村山口登山道」)

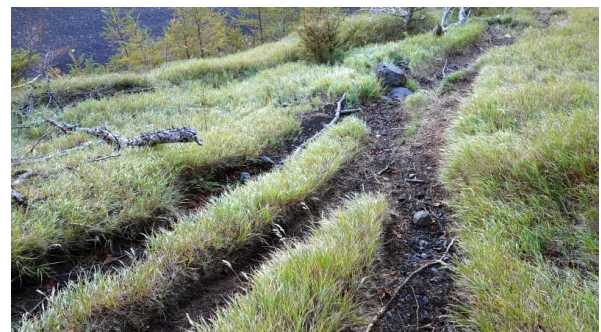
静岡県富士山世界遺産センター「富士山巡礼路調査報告書 大宮・村山口登山道」(2021年)によれば、「村山から現在の六合目までの区間は、(中略)本書を手に気軽に歩けるといった区間ではないことにくれぐれもご注意いただきたい(104頁[付記])」と指摘されている。スラッシュ雪崩の影響や倒木帯など歩行困難箇所が続き、現状では一般来訪者の利用は困難。

4-(6) Hコース(宝永火口縁～ニツ塚～御殿場口新五合目)

宝永火口縁から御殿場口へ向かうハイキングコース。トレイルランニングの講習会や富士宮口からの富士下山ツアーにもよく利用され、宝永第三火口から御殿庭入り口への樹林帯で、比較的薄い土壌の侵食、流出が拡大している。



(歩道拡幅、複線化、根の露出・損傷、Hコース)



(歩道の多重複線化、Hコース)

2-(7) Lコース(西臼塚遊歩道)

西臼塚駐車場から比較的容易にアクセスでき、家族連れや高齢者にもよく利用されている。



(土砂の流失、木の根の露出の拡大。複線化した新しい道も歩きにくくなっている。Lコース)



(2021年12月、侵食、水ミチ化が進む、Lコース)



(2021年10月、同地点)

3. 「植物」

年々広がる外来植物、国内外来植物が今年度も報告された。特定の場所での外来植物が毎年繰り返し報告され(黒塚北東の調整池など)、外来植物の駆除活動が追いついていない。富士山周辺での「ナラ枯れ」拡大が報告されているが、本年もあらたに自然休養林の標高1,600m付近までミズナラの「ナラ枯れ」が広がった。一方、自然休養林の林床景観を一変させたスズタケの消失は、依然として広く見られるが、場所によってはスズタケの実生が群生している事例が報告された。



(外来種「ハルザキヤマガラシ」。大調整池東側)



(外来種と大型ゴミが多いフジバラ平調整池周辺)



(外来種「セイヨウタンポポ」。大調整池南東側)



(外来種のセイヨウタンポポ、Iコース)



(外来植物セイタカアワダチソウ、西臼塚駐車場)



(移入植物のオオバコ、Iコース)



(ミズナラ大径木の「ナラ枯れ」、Eコース水平歩道)



(ミズナラの「ナラ枯れ」フジバラ平北)



(樹高がある天然ヒノキの群落、保護林)



(同、溶岩上、たくましい根張の天然ヒノキ)



(2006年11月 スズタケ)



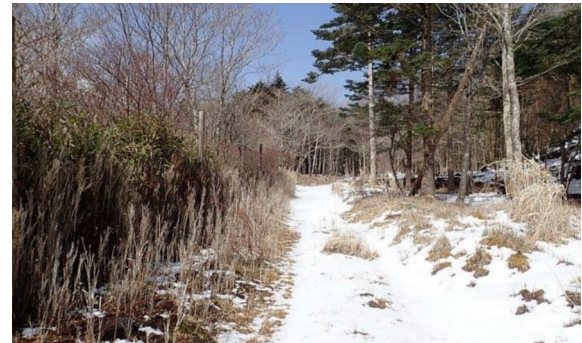
(2020年9月 スズタケ消失)



(スズタケの実生・群生、Cコース)



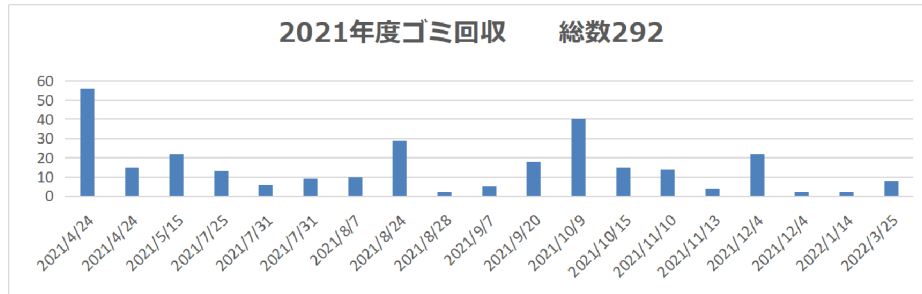
(モリアオガエルの卵塊がついたサンショウバラ)



(フェンス内は食害が無く植物が成長、腰切塚周辺)

4. 「ゴミ」

環境パトロールで毎回のようにゴミの回収を行った。御殿場口からニツ塚にかけては、歩道に旧スキー場のコンクリート・ブロックや鉄製ケーブルが放置されたままの状態が続いている。これら残置物は個人で搬出が困難で、ハイカーやランナーが足を引っ掛ける恐れがある。また、数多くのタイヤが放置され景観を損ねている。同様に、外来植物ハルザキヤマガラシが多い黒塚北東の調整池でも大量のゴミが放置されている*。毎年、関係者に報告しているが、対応は取られていない。本格的な残置物やゴミ回収を企画する必要を強く感じる。(*2022年4月調整池のゴミ回収済)



(環境パトロール中にゴミを回収し報告した個数)



(歩道に露出しているワイヤーケーブル、1コース)



(残置タイヤ群、大石茶屋西側)



(歩道にコンクリート・ブロック、1コース)



(小屋建築物残骸、御殿場口旧六合目)



(黒塚北東の調整池でも大量のゴミが放置*)

(*2022年4月調整池のゴミ回収済)



(ベンチの下にポリタンク、宝永第一火口)

5. 「施設」

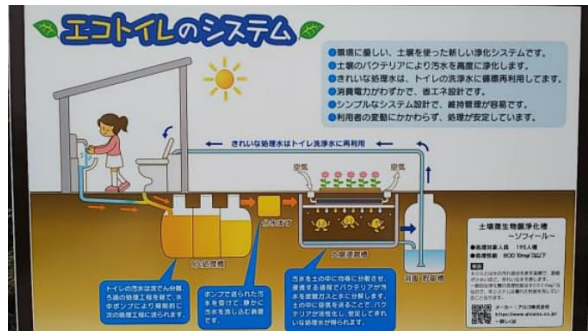
新五合目のトイレはエコトイレにリニューアルされ来訪者の便宜が図られていた。Iコースの環境パトロール時に、富士山エコレンジャーの芹澤御殿場市観光協会事務局長が、エコトイレを解説した。御殿場口登山道はトイレが少なく、携帯トイレが必要で、御殿場口新五合目のリニューアルされた公衆トイレ(エコトイレ)での携帯トイレ回収BOXの常時設置とトレイルステーションでの携帯トイレ販売(もしくは、協力金のお礼に配布)などの要望があった。

富士宮口五合目の火災で使えなくなったレストハウスへの対策として設置された、仮設トイレや休憩施設などの状況が報告された。「西臼塚ふれあいの森は、四季を通じて利用者が訪れ、自然と触れあえる貴重な場所なので、夏シーズンしかバイオトイレが利用できないのなら、夏以外の来訪者のために、移動できる工事事用トイレボックスを設置してもらえると野外排泄をしなくて済む」という要望があった。

腰切塚麓のクロカン・コースでは、斜面上の走路で雨水侵食が起き、大雨によってウッドチップが植生部分へ流出していた。クロカン・コースの部分的な修復作業が行われたようだが、管理者はぜひ傾斜地の現場を定期的に実地調査され、植生への負荷を減らす対策を講じてほしい。



(エコトイレの説明、芹澤エコレンジャー)



(エコトイレのしくみ解説版)



(従来なかった手洗いも設置)



(2019年9月、携帯トイレ回収BOX)



(崩壊が進む石碑、二ツ塚下塚山頂)



(仮設トイレ、富士宮口五合目)



(傾斜箇所ではクロスカントリーコースからウッドチップが外に流れ出て植生を覆う。水ヶ塚公園)



(腰切塚山頂の新しい展望台、Kコース)



(同、景観を楽しめるビュースポット)



(水ヶ塚公園西側の腰切塚展望台からの景色、人工林、針広混交林、側火山、宝永火口など一望)



(休憩場所として利用要望、元祖七合目)



(外来植物防除マットと売店、富士宮口五合目)



(来訪者は防除マットに気づかずに通過、同)



(外来植物防除マット、須走口五合目)

6. 「動物」

富士山南麓の森林生態系に大きな影響を及ぼしているニホンジカの痕跡はあるものの、昨年と同様に目撃回数は減った。須山口登山歩道1.5合目付近(標高約1,600m)では、センサーカメラの記録でも9年前に比べてニホンジカの撮影頻度が減少している。ただ、片蓋山周辺は依然としてニホンジカの痕跡が多いとの報告がある。また、8月には、標高約2,400mの樹林帯でニホンジカが目撃された。センサーカメラにはタヌキやニホンアナグマ、ハクビシン、キツネ、テンも記録された。環境パトロール中にリスが目撃された。イワヒバリ、ビンズイ、カヤクグリ、ウグイス、ヒガラ、ルリビタキ、メボソムシクイ、アカゲラなどの野鳥が観察された。



(6月、ニホンアナグマのペア)



(6月、尾が長いハクビシン)



(6月、今年誕生したニホンジカとその母ジカ)



(8月、樹林帯で遭遇したニホンジカ、Gコース)



(10月、4尖の枝角をもつニホンジカ♂)



(1月、キツネ)



(3月、タヌキ)



(3月、テン)

7. 「私的マーキング」

富士山自然休養林の各ハイキングコースには、富士山自然休養林保護管理協議会の統一された標準標識や案内板が設置されているにもかかわらず、派手なビニールテープのくくりつけや樹木や岩に直接ペイントする私的マーキング(設置者や行き先、設置目的が不明)が数多く見られる。

目立つ私的マーキングは、枯損木に注意喚起のために付けられたマーキングを目立たなくし、場合によっては危険箇所へ誘導しかねない。ビニールテープなど大量の人工物持ち込みは、樹林帯の森林生態系へ悪影響をもたらす。また、景観を愉しみにきた来訪者へ最悪のもてなしとなりかねない。

なぜ、これほど多くの私的マーキングが付けられているか、管理者は調査分析を行い、適切なガイドラインを検討し、公表してほしい。ガイドラインに沿って、不要箇所の私的マーキングの取り外しなど、私達富士山エコレンジャーも協力したい。

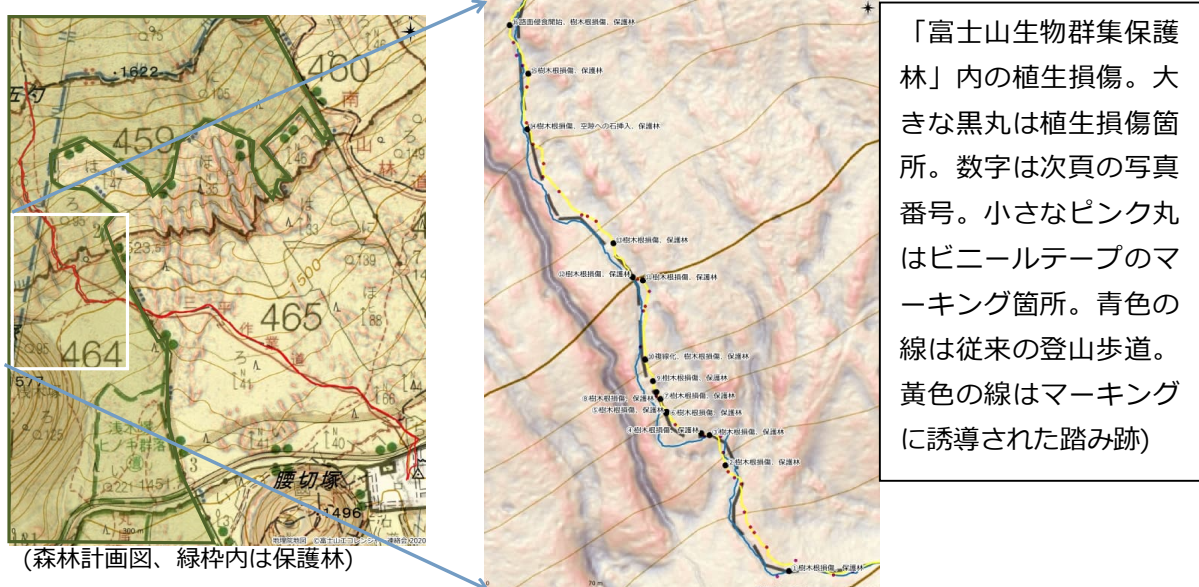
7-(1) 須山口登山歩道(D/E ハイキングコース)浅黄塚分岐~1.5 合

富士山自然休養林を通過する須山口登山歩道(D/E ハイキングコース)には、他の自然林ハイキングコースと同様に、富士山自然休養林保護管理協議会によって標準標識が設置されている。さらに須山口登山歩道保存会の標識も設置されている。しかしながら、「浅黄塚への分岐から須山口 1.5 合目までの比較的長い 600m の区間」には、行き先を表示した標準標識は見当たらない。

その代わりに、この区間には設置管理者や行き先が表示されないビニールテープのマーキングが多数見られる。この私的なマーキングは、侵食で歩き辛い歩道から踏み出し、ニホンジカの食害などによりスタケが消失して見通しが効く林床を直線的に通る踏み跡へ誘導している。これらビニールテープの多くは、2020年10月頃にトレイルランのために設置されたようだ。

この区間は、トレイル・ランナーによるタイムトライアル・レースが行われ、その情報がソーシャル・ネットワークの Strava で拡散されている。また、裾野市の「準高地トレーニング」のトレイルラン・コースにも選定され利用が推進されている。この派手な私的マーキングに通行誘導され、歩道外の保護林内のいたるところで植生が踏み荒らされている(次ページ写真参照)。この踏み跡もミズ道となり新たな侵食が引き起こされ始めた。さらに、他の来訪者も、その踏み跡を利用してしまい、結果的に本来の登山歩道が修復されないまま放置されている(22 頁参照)。

この区間は、国有林「富士山生物群集保護林」に指定されている。来訪者の道迷いを防ぎ、「富士山生物群集保護林」の設置目的に則した利用になるように、森林管理署や富士山自然休養林保護管理協議会は、本来の歩道を修復し、私的マーキング設置者を指導し、標準標識の設置をお願いしたい。





富士山の山腹には、日本の低山帯から高山帯にわたる植生の垂直分布が模式的に存在し、太平洋気候区の典型的な森林として維持されている。低山帯には、ブナ、ミズナラ、カエデ類等の落葉広葉樹を主体とした天然林が成立し、亜高山帯には、カラマツ、イラモミ、ウラジロモミ、コメツガ、シラビソなどを主体とした天然林が成立している。また、丸尾と呼ばれる溶岩流上には、ヒノキ純林の特徴的な群落形成され、スコリアの堆積地には、火山荒原草本群落形成されている。このため、当該地域の代表的なこれらの群落を主体とする地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するため設定する。**富士山生物群集保護林の設置目的** 林野庁ホームページ

D/Eコースの水ヶ塚上から須山口登山歩道1.5合目間では、毎回報告しているピンク色の私的マーキングはそのままだった。このビニールテープに誘導された踏み跡は、ミズ道化が進み、樹木根の露出・損傷がさらにひどくなっていた。



(私的マーキングに誘導され、林床を通過する踏み跡、貴重な林床植生や樹木根損傷がさらに拡大)

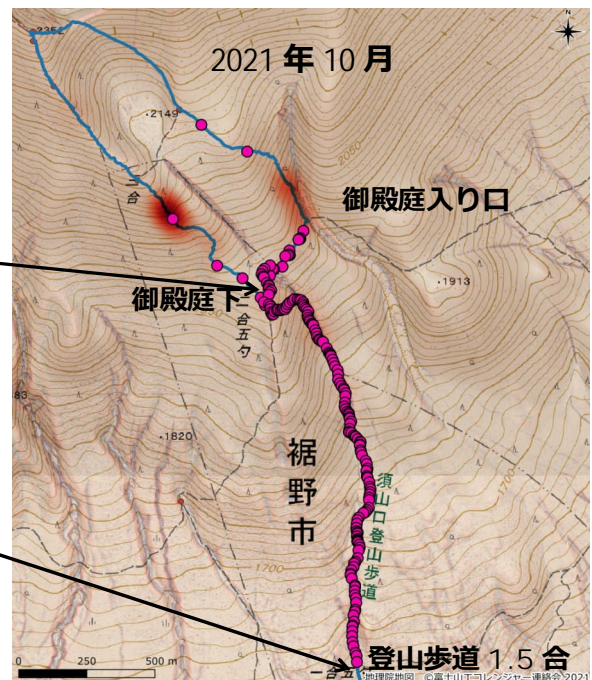
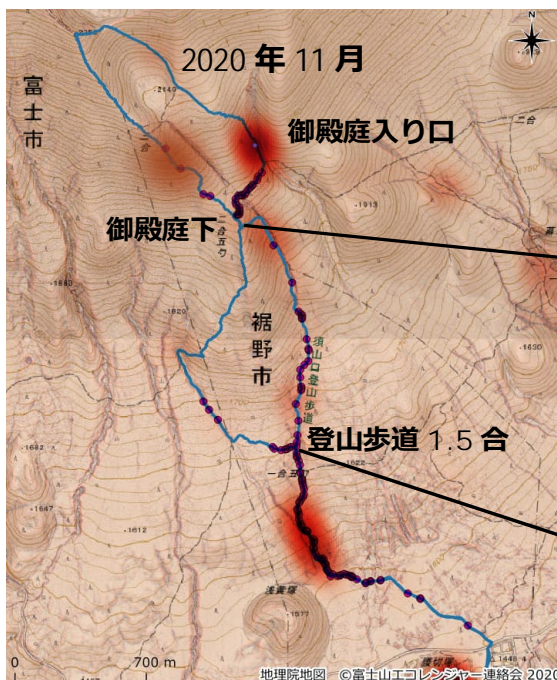


(迂回踏み跡入口、保護林樹木の損傷が激しい)

(保護林内の迂回、樹木根が露出し損傷)

7-(2) 須山口登山歩道(D ハイキングコース)1.5合目～御殿庭下、御殿庭入り口

Dコースの須山口登山歩道1.5合目から御殿庭下の区間でピンク色の私的マーキングが急増していた。昨年11月と比べて急増は明確だ。昨年11月は御殿庭入り口・御殿庭下間で急増し、現状もそのままだ。



(ピンク色の丸は私的マーキング、オレンジ色は歩道の荒廃箇所)

確認した派手なピンク色の私的マーキングの写真を以下に示す。写真は御殿庭下から須山口登山歩道1.5合方向へ移動しながら撮影した。この区間の距離は、およそ1,500mで、その間に131本のビニールテープの私的マーキングを記録した(一枚の写真に複数のテープもある)。平均の私的マーキング間距離は約12mになる。

御殿庭下・須山口登山歩道1.5合間の約三分の一は、毎年、宝永第三火口を源とするゴンバ沢が氾濫し、石や砂礫が堆積して登山歩道が不明瞭になるため、協議会や保存会の標識を補助する目的で私的マーキングが付けられることはありえる。しかし、残りの大半は一本道で、適切な間隔で協議会や保存会の歩道標識があり、私的マーキングの必要は感じられない。むしろ御殿庭へと続く良好な風致景観を損なっていると言わざるを得ない。



(御殿庭下から須山口登山歩道1.5合間の派手な私的マーキング)

また、ビニールテープのマーキングは協議会や保存会の標識にまで付けられたものもある。こうしたマーキングの付け方を見ると、私的マーキングの設置目的は、公共の登山道やハイキングコースの道標(みちしるべ)とは考えにくい。関係者の話から「私的マーキングの多くはスポーツイベントやコースに不案内なツアーガイド用に付けられ、そのまま残置している」と考えられている。



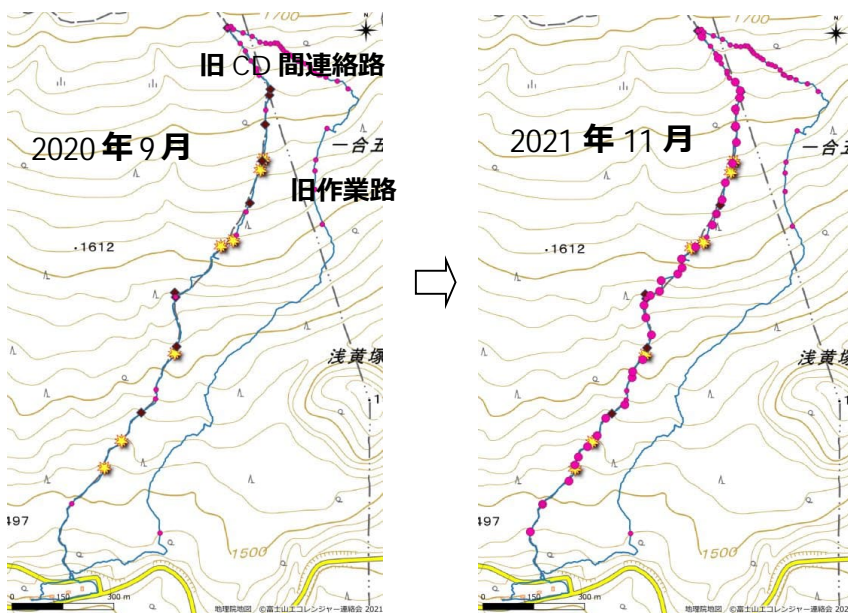
(保存会の標識につけられたビニールテープ) (協議会の標識につけられた3種類のビニールテープ)

7-(3) C2 コース入口～旧 CD 間連絡路

C2 コース入口から旧 CD 間連絡路までの間で、昨秋以来、新た付けられた長いピンク色のビニールテープによるマーキングを 30 箇所以上で確認した。自然景観を損なうほど目立つ私的マーキングは、他の休養林ハイキングコース(D コースや御殿庭下・御殿庭入口間連絡路など)で多数見られるものと同じであり、ランニング・イベントやコースに不案内なツアーガイド用のコース目印と思われる。

また、C2 コースでは、歩道周辺に枯損木があり注意喚起のためテープが巻いてあるが、古くなり色も褪せ見えづらくなっている。こうした場所で、派手に目立つ長いピンク色のビニールテープによる私的マーキングが多数設置されると、危険な枯損木への注意がおろそかになりかねない。

設置者、行き先、目的が不明確な私的マーキングを公共の歩道に設置する行為は、来訪者の安全や貴重な自然景観を損なう恐れがある。既に協議会や関係行政にお願いしているように、協議の場で適切なルールをつくってほしい。早い時期に対策しなければ、ここ数年報告しているように、公共の歩道に私的マーキングがますます増加すると予想される。



(図 標準標識とビニールテープなど私的マーキングの設置状況。左 2020年9月、右: 2021年11月)

C2 コースに多数の派手に目立つ長いピンク色のビニールテープが設置された。青色の線: パトロールコース、茶色の菱形: 協議会標準標識、小さなピンク色の丸: 短いピンク色ビニールテープ、黄色の星型: 枯損木、大きなピンク色の丸: 長いピンク色ビニールテープ。



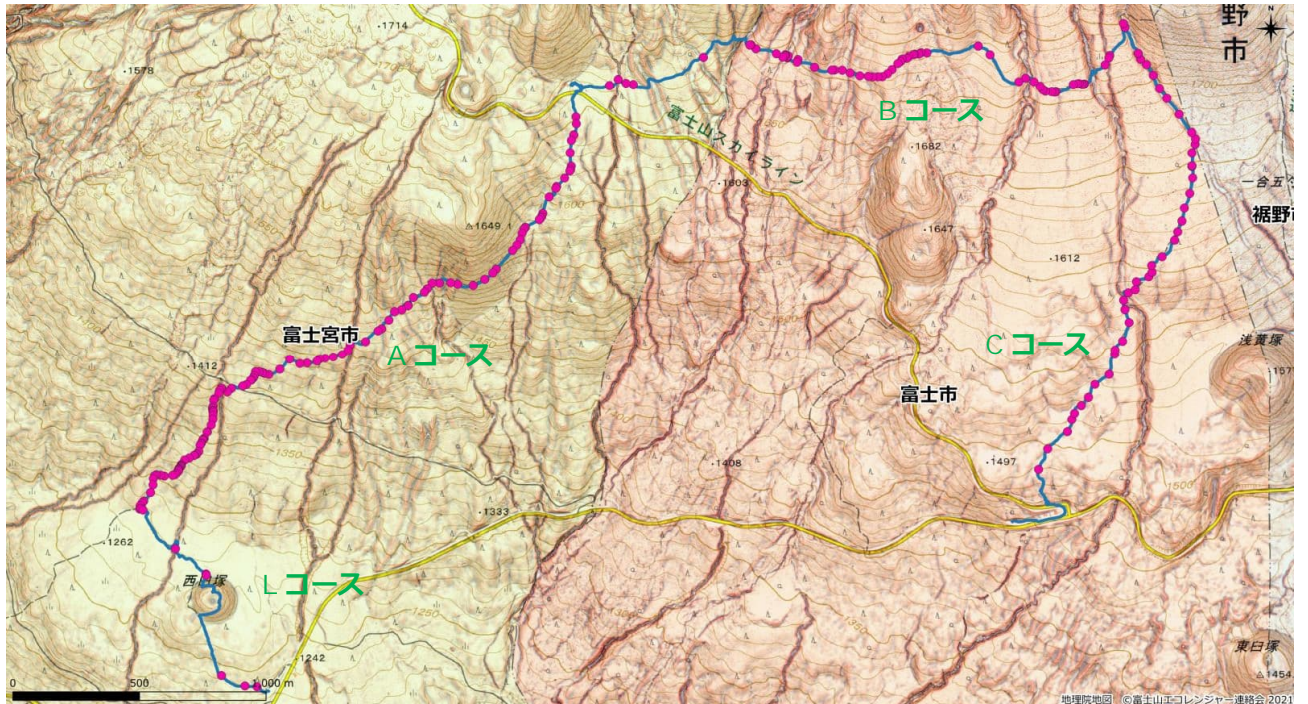
(C2、新たな長いピンク色ビニールテープ)



(C2、目立たない枯損木の注意喚起テープ)



7-(4) Cコース～Bコース～Aコース



(赤丸は、環境パトロールで確認した私的マーキング)

Cコースには、他のコースとの分岐以外にも、協議会の標準標識が比較的多く設置されている。B、Aコースでは、他の歩道や林道との交差点以外は標準標識は少ない。

Cコースでは、昨年秋以降に派手に目立つ長いピンク色ビニールテープが多数付けられた。Bコースの不動沢付近にかけても、同様な長いピンク色テープが多い。ガラン沢を超えて西に向かうと比較的古い、黄色や白色のテープが増えてくる。日沢を越えると私的マーキングが減る。Aコースに入ると様々な経年状態や色彩のテープと共に、樹幹に直接ペイントしたマーキングが増え、私的マーキングの総数も多い。Aコースの伐採区間では、樹木の幹に巻きつけた短いテープが多い。





(C、A、B、Lコースの歩道で記録したビニールテープやペイントなど208個の私的マーキング)



(Bコース しばらく長いピンク色テープが多い)



(Aコース、樹幹に直接ペイントしたマーキング)

7-(5) Hコース宝永火口縁～御殿庭入り口

Hコースには、白ペイントを使って岩に矢印や地名を表示した私的マーキング(設置者が不明)が多数ある。宝永第二火口、第三火口縁では、ガイドロープから外れて、植生部分を近道する白いペイントの矢印が見られた。宝永第三火口の標準標識「御殿庭上」の近くには、10年以上前から岩に直接「ごてんにわ」と白くペイントした地名表示があり、今も残置している。御殿庭入り口への下り斜面では、同じ場所に多くのペイントマーキングが見られた。



(ガイドロープ手前から植生へ近道を誘導するペイント)



(左写真の矢印の先は植生)



(協議会標識の近くに岩に地名を直接ペイント石)



(風致景観にそぐわない岩への直接ペイント)

8. 「植物・動物」野生動物、主としてニホンジカによる採食



(カラマツの樹皮はぎ、Iコース)



(カラマツの樹皮はぎ、枝先の枯れ、Iコース)



(樹林帯広葉樹の樹皮(はぎ)(根際の食痕)



(ナナカマド樹皮(はぎ)



(マムシグサの仏炎苞食痕)



(ミツマタの枝先採食、送電線下の伐採地)



(ニホンジカ角研ぎか、弁当場近く)



(浅黄塚東側自然林入り口近く、ミズキの樹皮(はぎ)



(3月、ニホンジカ樹皮(はぎ)、片蓋山周辺)

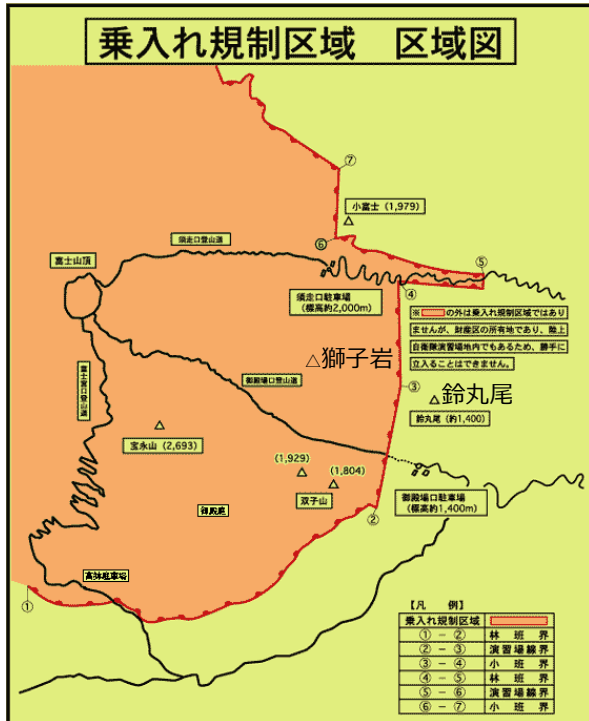


(7月、工事で広げた道に苗が植林されたが、3月には植林した苗がすべて食害、腰切塚)

9.「オフロード」

乗り入れ規制区域内の獅子岩南東部、鈴丸尾北西部で轍が見られた。乗り入れ規制区域外周辺では、鈴丸尾南西部の旧ブルドーザー道周辺で見られた。獅子岩西側では放置された車がそのままだった。

また、夕刻、鈴丸尾周辺で走行するオフロード・バイク3台を目撃した。乗り入れ規制案内板が樹木の成長で読めなかった。定期的なオフロード車監視パトロールと来訪者への周知を要望したい。



(図 乗入れ規制区域、静岡県ホームページより)



(獅子岩南東部の轍)



(鈴丸尾北西部の轍)



(鈴丸尾斜面を登るオフロード・バイク)



(鈴丸尾麓、3台のオフロード・バイク)



(樹木の成長で読めなくなった乗り入れ規制案内板)



(獅子岩西側の火山荒原に放置された車)